

図1 定点観測用のインシュロックマーカの位置(各地点に10本ずつ設置)。浅い方から St1、St2、St3 と設置。

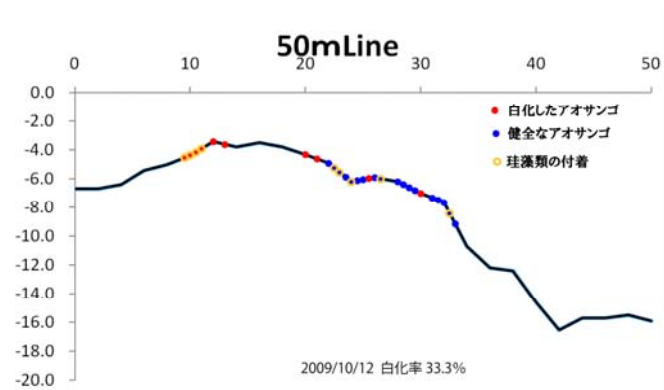


図2 基線上 50m の位置から垂直に引いた枝側線の断面図 (2009 年 10 月 12 日)

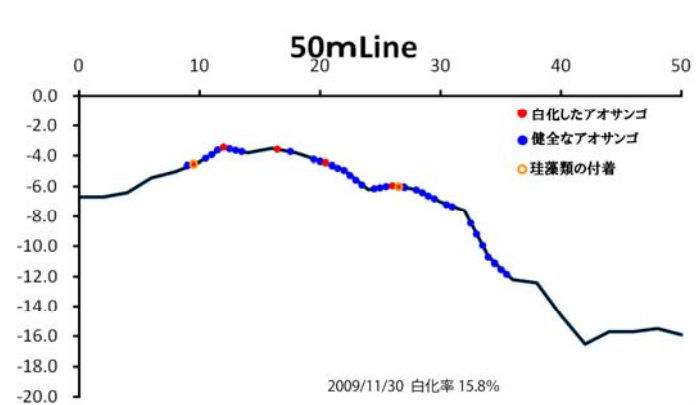


図3 基線上 50m の位置から垂直に引いた枝側線の断面図 (2009 年 11 月 30 日)

アオサンゴ群集上の枝側線を1本取り出し(50mライン)白化率を白化10月12日の7週間後の11月30日で比べたところ、白化率が前回の33.3%と比べ15.8%にまで減少していた。図が示すよう新たに白化した樹枝状部はなく、白化している樹枝状部が減り、珪藻類が付着していた樹枝状部の数も減っている。

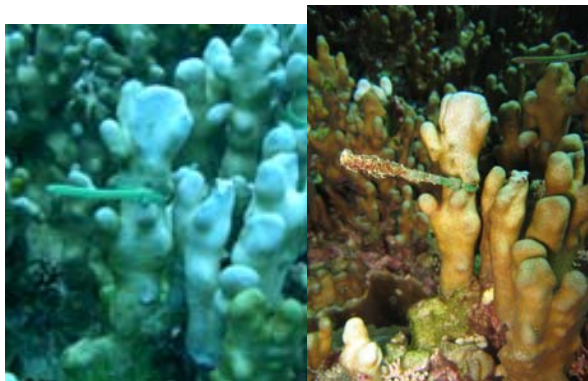
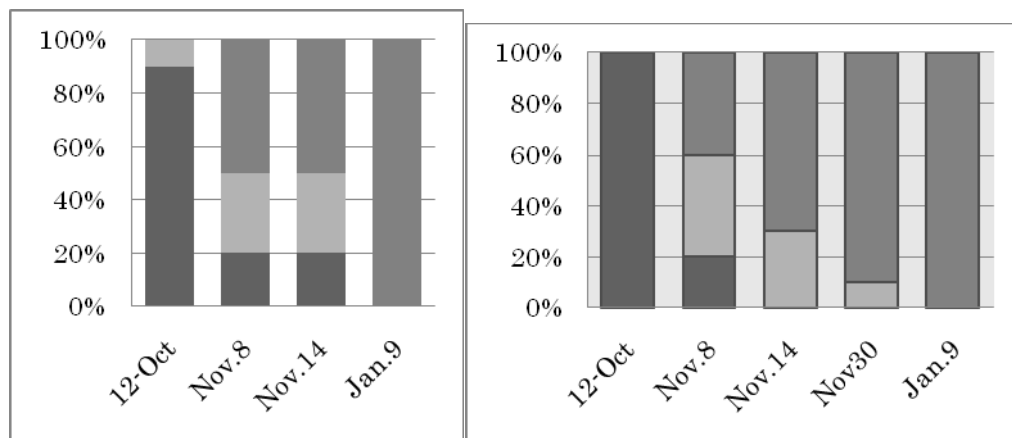


図5 樹枝状部が完全に白化している様子(左、10/12観測)、樹枝状部に色が戻り平常の褐色に戻った様子(右、11/14観測)



完全に白
 やや白
 褐色

St1 の調査結果

10/12には10本の樹枝状部のうち9本が「完全に白」に分類されていたが、1月9日には褐色に戻っている

St2 の調査結果

10/12には10本の樹枝状部全てが「完全に白」に分類されていたが、1月9日には褐色に戻っている

図6 St1、2の調査結果(縦軸の数値は樹枝状部10本を100%とする)